

ロシアにおけるセンサス代替方法の可能性

著者名(日)	山口 秋義
雑誌名	九州国際大学経営経済論集
巻	18
号	2
ページ	31-46
発行年	2012-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1265/00000213/

ロシアにおけるセンサス代替方法の可能性

山 口 秋 義

要 旨

各国において伝統的センサスからレジスターベースのセンサスやローリングセンサスなど代替方法への移行が進みつつある。ロシアにおいてもプライバシー意識の高まりを背景として調査環境が悪化しつつあるなかで、他国における統計実践に触発されながらセンサス実施方法の方向転換に関する論議がようやく開始された。本稿では2010年人口センサスの調査環境が前回2002年と比してさらに悪化したことを連邦国家統計局と民間調査機関の資料を基に示し、またこれへの打開策として提示されているセンサス代替方法が定着しうるかを検討する。

キーワード

ロシア、人口センサス、国勢調査、統計調査環境、レジスターベース統計

目 次

はじめに
第1節 2010年人口センサスの経緯
第2節 調査環境の悪化
第3節 センサス代替方法
第4節 人口レジスター
結び

はじめに

伝統的センサスからレジスターベースのセンサスやローリングセンサスなど代替方法への移行が各国において進みつつある。この移行を促した要因のひとつはプライバシー意識が高まる中で調査への非協力が広まり各国において調査票回収率が低下したことである。ロシアにおいても2002年人口センサスにおいて悪化した調査環境が露呈し、伝統的方法によるセンサスの実施に大きな困難が伴った。また2002年センサスは当初1998年に予定されていたが通貨危機に端を発した財政問題によって延期され、2010年センサスも2008年金融危機以降度々延期が検討されたⁱ。このように調査環境の悪化と財政負担とを背景とし、また他国における統計実践に触発されながらセンサス実施方法の方向転換に関する論議がようやく開始された。

このような事情と関連した次の2つを本稿の課題とする。

第一に、2010年10月に実施された人口センサスの調査環境が2002年と比べてさらに悪化しセンサス実施が困難となりつつあることを、連邦国家統計局ⁱⁱと世論調査機関の資料に基づいて示すことである。

第二に、このような困難の打開策として提案されているセンサス代替方法の内容を整理し、これがロシアの統計実践において定着しうるかを検討することである。

i 2008年の金融危機の後、2010年センサスは一時2013年への延期が検討された。А.Г. Вишневский, С.В.Захаров. Что знает и чего не знает российская демографическая статистика. «Вопросы статистики», 2010 №2, стр.13.

ii Федеральная служба государственной статистики (Росстат) 連邦国家統計局という訳語が定着しつつあるのでこれに従う。

第1節 2010年人口センサスの経緯

調査計画

2010年センサスに至る経緯を見ておくⁱⁱⁱ。

2008年10月に2010年センサスの予行演習となる予備センサスが3つの地域において実施された。これらの地域はモスクワ市郊外のバラシハ地区、サンクトペテルブルグ市及びハバロフスク市であった。2002年センサスにおいて調査票回収率が低かったことへの対応として郵送による回収が試験的に採り入れられた。また調査員による他計方式に替えて自計方式が採用された。

2009年11月に連邦法「全露人口センサスについて」が改正され、センサスの準備と実施に関する責任を連邦執行機関が負うこととなった^{iv}。同年12月にロシア連邦政府決定「2010年全露人口センサス組織について」^vによって調査日時が2010年10月14日午前0時、実施期間が10月14日から25日までと定められた。またこの政府決定によって集計結果が2013年第4四半期までに公表されることが定められた。調査票は2009年12月の連邦政府決定^{vi}によって3種類が承認された^{vii}。

iii 実査以前の経緯は次の文献の記述に基づいて示す。И.А.Збарская. О подготовке к Всероссийской переписи населения 2010 года. «Вопросы статистики», 2010, №2, стр.3-7.

iv Российская федерация. Федеральный закон о Всероссийской переписи населения.

<http://www.perepis-2010.ru/documents/acts/law-8-fz/php> (アクセス日2011年10月25日) 当該改正条項はСтатья 5,1)である。

v Постановление от 23 декабря 2009 г. №1074. Об организации Всероссийской переписи населения 2010 года.

<http://www.perepis-2010.ru/documents/acts/postanovlenie1074.ph> (アクセス日2011年10月25日)

vi Распоряжение от 16 декабря 2009 г. № 1990-р.

<http://www.perepis-2010.ru/documents/acts/> (アクセス日2011年10月25日)

vii 調査票は、定住者と国外長期滞在中の軍人及び外交官用のⅠ票、国内一時滞在者及び国外定住ロシア国民用のⅡ票、及び生活・住宅条件調査用のⅢ票とであった。今回採用された調査項目の主な変更点は次のとおりである。すなわち、「正式に離婚」と「婚姻関係の破綻」とを区別したこと、学位制度の変更に伴って選択肢を変更したこと、母国語に関する質問を設けたこと、第1子出産年齢を問うたこと、等である。調査票は次のサイトに掲載されている。<http://www.perepis-2010.ru/perepisnye-listy/> (アクセス日2011年10月25日)

実査

2010年10月14日から25日まで当初の予定に基づいて全国にわたり実査が行われた。但し、気候及び地理的条件に制約されてこの時期の実査が困難な一部の地域ではこの限りではなかった^{viii}。

調査員は予備員を含めて61万7,000人であり、そのうちモスクワ市における調査員は3万3,000人であった。調査員の構成は、主婦及び年金生活者が36%、会社員及び団体職員が26%、学生及び教師が25%、その他が13%であった^{ix}。

2008年予備センサスにおいて試験的に採用された自計方式と郵送回収は回収率が低かったため今回は採用されず、従来通りの調査員による他計方式が採用された。被調査者は自宅以外に常設センサス出張所へ赴いて調査に応ずることもできた。このような出張所の数は2002年センサスにおいては全国で約1万7,000か所であったが、今回は7万6,000か所開設された。出張での調査に応じた人は約800万人、すなわち全体の6%に上り、モスクワ市だけに限るとこの割合は約20%に上った^x。2002年センサスにおいて採用された電話による聞き取り調査は今回廃止された。

自宅に不在であったため調査できなかった約260万人と調査を拒否した約100万人とを合わせた360万人分の情報は、連邦法「全露人口センサスについて」に基づいて住宅居住者名簿など他の行政資料から性別と生年月日だけが調査票へ転記された。このように行政資料からの情報転記は2002年センサスにおいては約150万人分であり今回急増した^{xi}。調査員の安全確保のため防犯用ホイッスルが支給されただけでなく警察官が身辺警護にあたった。警察官約8万人と警察学校学生約2,000人が調査員の身辺警護に動員され、およそ5人の調査員

viii ヤマル・ネネツ自治区におけるトナカイ遊牧民を対象とした調査は2010年4月1日に開始され、またスエルドロフスク州とチュメニ州内の僻地では12月20日までに実査が終了した。И.А.Збарская. О первых результатах Всероссийской переписи населения 2010 года. «Вопросы Статистики», 2011 №1, с.3.

ix Там же, с.3.

x Там же, с.4.

xi Там же, с.4.

につき1人が警護にあたった^{xii}。また各国において導入が進みつつあるインターネットによる調査について検討されたものの採用するに至っていない。

集計速報の主たる内容

2011年4月に速報集計結果が発表された^{xiii}。主たる内容を見ておく。

第一に、前回の2002年センサスと比べてさらに人口減少が進んだことである。すなわち、総人口数は1億4,290万5,200人であり2002年センサス結果から226万1,500人、率にして1.6%減少した。したがってこの間の年平均減少率は0.2%となる。その結果2002年には人口数において世界第7位であったが8位となった。しかし連邦国家統計局がセンサス間期に発表した推計人口によると、自然減少数は2005年に84万7千人となって以後縮小を続け、2009年には24万9千人となり移民流入と合わせて人口数は前年比1万人の増加となっている^{xiv}。連邦国家統計局の数値によれば、前回のセンサスと比べてさらに人口減少が進んだとはいえ2005年以降人口減少に歯止めがかかりつつあるという^{xv}。

第二に、自然減少数の約半数が国外からの移民流入によって補完されたこと

xii Там же, с.5.

xiii Федеральная служба государственной статистики. Предварительные итоги Всероссийской переписи населения 2010 года.

http://www.gks.ru/free-doc/new_site/perepis2010/ (アクセス日2011年10月25日)
集計結果に関する連邦国家統計局サイドからの解説として次の文書がある。

О предварительных итогах Всероссийской переписи населения 2010 года. «Вопросы статистики» 2011 №6, стр.3-20.

xiv Федеральная служба государственной статистики. Современная демографическая ситуация в Российской Федерации. стр.1.

<http://www.gks.ru/wps/wcm/connect/rosstat/rosstatsite/main/population/demography/> (アクセス日2011年10月25日)

xv アメリカ中央情報局が2011年7月に推計したロシアの総人口数はロシア政府の公式発表より約400万人少ない1億3,873万9,892人であった。また出生率や死亡率もロシア連邦国家統計局の数値と大きく乖離している。CIA The world factbook.

<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/rs.html> (アクセス日2011年10月25日) CIAの推計結果についてはロシア国内においても報道され注目されている。たとえば次の記事がある。Как ЦРУ и Росстат информируют свои правительства. «Независимая газета» 7 октября 2011.

http://www.ng.ru/editorial/2011-10-07/2_red.html (アクセス日2011年10月25日)

である。2002年から2010年のセンサス間期における自然減少数は473万4,300人であり、うち出生数が1,270万6,300人、死亡数が1,744万600人であった。他方社会増加数は247万2,800人であり、うち流入数が293万2,800人、流出が44万6,400人であった。これをまとめると表1のようになる。

表1 2002年センサスから2010年センサスまでの人口変動

人口減少数	自然減少	うち		社会増加数	うち	
		出生	死亡		流入	流出
▲226万1,500	▲473万4,300	1,270万6,300	1,744万600	247万2,800	293万9,200	44万6,400

出所：О предварительных итогах Всероссийской переписи населения 2010 года.
«Вопросы статистики» 2011 №6, стр.2. より作成した。

第三に、南部地域と大都市部とにおいて人口が増加したことである。人口数が増加した連邦構成主体は20あった。増加率の大きかった地域と増加率を示すと、ダゲスタン共和国が15.6%、チェチェン共和国が15%、モスクワ市が7.2%、サンクトペテルブルグ市が4%となる^{xvi}。モスクワ市の人口は2002年には1,012万6,400人であったが2010年には1,151万4,300人となった。また人口が減少した連邦構成主体は63であった。

今後の公表予定

集計作業は「2010年全露人口センサス集計計画」^{xvii}に従って2012年12月31日までに終了する予定である。集計結果は2011年から2012年にかけて逐次公式サイト^{xviii}において公表される。また全国及び各連邦構成主体の集計結果が2012年から2013年にかけて全11巻にわたり出版される予定である。

xvi О предварительных итогах Всероссийской переписи населения 2010 года.
«Вопросы статистики» 2011 №6, стр.4.

xvii План распространение итогов Всероссийской переписи населения 2010 года.

<http://www.perepis-2010.ru/documents/acts/>（アクセス日2011年10月25日）

xviii www.perepis-2010.ru

また全ての集計結果の公表が終了した後、2013年に研究目的のため匿名化処理されたマイクロデータが公表される予定である^{xix}。

第2節 調査環境の悪化

広報活動

2002年センサスと2008年予備センサスにおいて調査への非協力が広がり調査環境の悪化が露呈した。これへの対応として連邦国家統計局が中心となってセンサスへの協力を国民へ呼びかける広報活動が取り組まれた。「ロシアにとってすべての人が大切」というセンサスのスローガンを記したポスターが数種作成され、センサス記念切手や記念硬貨が発行された^{xx}。また国民からの質問や苦情を受け付けるためのホットラインが2010年9月5日から10月31日まで開設されこの期間に全国から約20万件の問い合わせがあった。その内訳はモスクワ市が48%、モスクワ州のほかの地域が17%、ペテルブルグ市が12%、レニングラード州の他の地域が9.2%となっている^{xxi}。しかし2010年10月10日投票の統一地方選挙の広報と時期的に重なったことが人々のセンサスへの関心を低下させた。選挙が終わるとセンサスのポスターと一緒に撤去されたことが報告されている^{xxii}。

xix Збарская, указ. соч., стр.6.

xx スローガンはРоссия важен каждый!である。記念切手数種と10ルーブル硬貨及び3ルーブル銀貨が発行された。

xxi Збарская, указ. соч., стр.4.

xxii Там же, стр.4.

調査漏れと調査拒否

i. 連邦国家統計局による評価

調査漏れと調査拒否は2002年センサスと比べて大きく増加した。その規模を連邦国家統計局の評価に基づいて示す^{xxiii}。

100万人を超える人々が個人的理由から調査を拒否した。また約260万人が自宅不在のため調査されなかった。これら合わせて約360万人について住宅居住者名簿などの行政資料から性別と生年月日だけが調査票へ転記された。このような転記は2002年センサスにおいては150万人分であり、これと比して凡そ2.5倍となった^{xxiv}。

また連邦国家統計局へセンサスに対する苦情の手紙と電子メールが約2万5千通寄せられ、うち7割にあたる1万8千通が宗教上の理由から調査を拒否するという内容であり、21.5%が調査員として働くことを強要された学生からの苦情であり、また6.5%が調査員に対する苦情であった^{xxv}。

ii. 民間調査機関による評価

2002年センサス時に引き続き民間の世論調査機関が2010年センサスの調査環境について調査を行っている。レヴァダセンターが2010年11月1日に全国にわたって行った調査^{xxvi}によると、調査を受けなかったと回答した人が13%、モスクワ市に限るとこの数値は24%に上る。また調査員の訪問そのものがなかったと回答した人は56%であり2002年と同様に高い数値であった。

xxiii 次の文献に依拠する。И.А.Збарская. О первых результатах Всероссийской переписи населения 2010 года. «Вопросы Статистики», 2011 №1, с.3-6.

Расчёт окончен (руководитель Росстата А.Е.Суринов о первых итогах Всероссийской переписи населения 2010 года). «Вопросы статистики», 2010 №12, с.3-4.

xxiv Збарская, указ. соч., стр.4.

xxv Там же, стр.4.

xxvi Левада-центр. Итоги переписи населения 2010. (01.11.2010).

<http://www.levada.ru/press/2010110101/html> (アクセス日2011年10月25日)

また同じ時期に全露世論調査センターが行った調査によれば^{xxvii}、調査されなかったと回答した人は11%であり、同センターが2002年に行った調査結果の5%から急増している。

表2 民間調査機関による調査環境の評価

	%	
レヴァダセンター	2002	2010
質問: 調査そのものを受けたかどうか		
自身が調査を受けた	73	67
家族が代表して調査を受けた	20	17
全く調査されなかった	6	13 (モスクワ市24%)
わからない	1	2
質問: 調査員の訪問はあったか		
あった	19	10
なかった	52	56
わからない	29	34
全露世論調査センター		
調査されなかった	5	11

出所: Левада-центр. Итоги переписи населения 2010. (01.11.2010).
<http://www.levada.ru/press/2010110101/html> (アクセス日2011年10月25日) 及びВЦИОМ. Пресс-выпуск №1621. (08.11.2010)
<http://www.wciom.ru/index.php?id=459&uid=13982> (アクセス日2011年10月25日) より作成した。

妨害行為

調査員への暴行事件は2002年同様に報告されている。またセンサス公式サイトと1文字違いの偽サイトがセンサス初日の10月14日に出現し数時間後連邦保安庁によって閉鎖された^{xxviii}。またセンサス実施前日にはモスクワの連邦国家統計局前において抗議集会が開かれている。

xxvii ВЦИОМ. Пресс-выпуск №1621. (08.11.2010).

<http://www.wciom.ru/index.php?id=459&uid=13982> (アクセス日2010年10月25日)

xxviii Эбарекая, указ. соч., стр.5.

またモスクワにおいて記入済みの偽造調査票が混入されるという事件が、連邦国家統計局によって確認されている^{xxix}。モスクワ市内の各センサス出張所へ住民数を何人にしなければならないというノルマが地区行政機関から与えられ、記入済み偽造調査票が多数混入されたという情報が報道によって指摘された。これを受けて連邦国家統計局が調査したところ、2010年12月時点において調査対象となった事案のうち2件について事実を確認できず、4件について偽造の事実が確認され、さらに2件について調査中であった。こうした偽造調査票の混入事件の背景には、地区行政機関がより多くの補助金交付を目的として住民数を水増しするために組織的に行ったという事情があるというのが連邦国家統計局の見解である^{xxx}。

第3節 センサス代替方法

ロシアにおいて伝統的センサスから代替方法への論議がある^{xxxi}。この論議の背景には次の3つの事情がある。第一に、調査票回収率の低下に象徴されるように2010年センサスの調査環境は2002年センサスからさらに悪化したことである。第二に、1998年センサスは2002年へ延期され2010年センサスは2013年への延期が検討されたように、1度に多額の予算を必要とするセンサスは財政上の大きな負担となっていることである。第三に、諸外国における伝統的センサスから代替方法への移行という統計実践から触発されたことである。

xxix この問題に関して『ロシア新聞』と連邦国家統計局スーリノフ長官とのインタビューがある。Расчёт окончен (руководитель Росстата А.Е.Суринов о первых итогах Всероссийской переписи населения 2010 года). «Вопросы статистики», 2010 №12, стр.3-4.

xxx Там же, стр.4.

xxxi この問題に関する論議を次の文献を中心にみる。Клутт,М.А., Никифоров,О.Н.. Альтернативные методы проведения переписей населения: применимы ли они в России? «Вопросы статистики» 2010 №9, стр.3-8.

表3は米国とEU諸国における人口センサスの諸類型である。ここでは伝統的センサス実施する諸国、レジスターベースのセンサスへ移行する諸国、さらにローリングセンサスへ移行する諸国、との3つに大別されるように見られる。ロシアがこのうちどの方向へ進むかが注目される。

この論議のなかで示されている方向は、創設途上にある人口レジスターに依拠したセンサスと追加調査を組み合わせた方法の採用である。たとえばクルプトとニキフォロフ^{xxxii}はロシアが近い将来において、北欧諸国のようにレジスターベースだけに依拠したセンサスやフランス型ローリングセンサスへ移行することは不可能であるとして、次のような諸方法の組み合わせを提案している^{xxxiii}。

第一に、人口レジスターに依拠した全国規模のセンサスを行うことである。実施周期は5年または10年とし、人口数、性別年齢別構成、地域分布などの基礎的データを入手することを目的とする。ただし、人口レジスターは創設途上でありその間は警察が所管する住民登録データを利用するとしている。

第二に、人口レジスターと実際の人口数との乖離を把握するためのサンプリング調査を行うことである。

第三に、例えば人口50万人以上の都市部を対象としたローリングセンサスを行うことである。これによって住宅条件や経済活動状態に関するデータを入手するとしている。

第四に、ローリングセンサスが不可能または無意味である人口の少ない地域において、センサス実施年に全数調査を行うことである。この調査の目的も住宅条件や経済活動状態に関するデータを入手することである。

xxxii クルプトはサンクトペテルブルグ経済財政大学教授、ニキフォロフはペテルブルグ統計委員会議長である。

xxxiii Там же, стр.6-7.

表3 米国及びEU諸国における人口センサスの諸類型

伝統的センサス	ブルガリア、英国、ハンガリー、ギリシャ、アイルランド、イタリア、リトアニア、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、チェコ、エストニア
レジスターベースのセンサス	オーストリア、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、スウェーデン
伝統的センサスとレジスターベースのセンサスとの組み合わせ	ベルギー、アイスランド、ラトビア、ルクセンブルグ、スロバキア
レジスターベースのセンサスとサンプリング調査との組み合わせ	ドイツ、オランダ
ロングフォームに替わるローリングセンサスとショートフォームによる伝統的センサスの組み合わせ	米国
ローリングセンサス	フランス

出所：Клупт, М.А., Никифоров, О.Н.. Альтернативные методы проведения переписей населения: применимы ли они в России? «Вопросы статистики» 2010 №9, стр.3.

第一と第二の方法によって、全国と地方との人口数とその分布に関する基礎的データを入手し、第三と第四の方法によって住宅条件や経済活動状態に関するデータを入手するとしている。これらの方法を組み合わせることによって、伝統的センサスと比べてより新しいデータを入手することと、予算を時間的により均等に配分することが期待できるとしている。

第4節 人口レジスター

創設途上にある人口レジスターの経緯を見ておく^{xxxiv}。1994年5月の大統領令「1994－95年における犯罪との闘いの強化に関する連邦計画実施のための緊

xxxiv 次の文献の記述による。Г.Ш.Бахметова, А.А.Испов. Регистр населения как система демографического учёта. «Вопросы статистики» 1999 №5, стр.33-40.

急方策について」^{xxxv}のなかで、犯罪対策を目的として人口レジスターを創設することが必要であると述べられた。これに基づいて同年12月の政府決定「ロシア連邦居住者と一時滞在者及び身分証明書国家自動記録システム創設に関する連邦計画案作成について」^{xxxvi}が採択され、人口レジスター創設の作業が開始された。このように1990年代半ばに犯罪対策を主たる目的として人口レジスター創設が計画されたがその後資金不足のため作業が中断した^{xxxvii}。

その後2002年1月に連邦計画「電子ロシア」の一環として人口レジスターが位置付けられ各地方において作業が進められている。

人口レジスターに記録される登録情報は次の通りである^{xxxviii}。

1. 個人識別番号 2. 苗字 3. 名前 4. 父称 5. 性別
6. 民族属性 7. 国籍 8. 生年月日 9. 出生地
10. 発行済み身分証明書 11. 現住所
12. 婚姻関係 (既婚、未婚、離婚、死別)
13. 家族関係 (続柄、家族の個人識別番号) 14. 現住所転入日
15. 転入理由 16. 転入元 17. 転入日 18. 転出理由 19. 転出理由

人口レジスターへ登録される情報の源泉は次の2つである。ひとつは戸籍登録^{xxxix}であり、出生、死亡、婚姻、等の情報が対象となる。もう一つは内務省

xxxv Указ Президента Российской Федерации «О неотложных мерах по реализации федеральной программы Российской Федерации по усилению борьбы с преступностью на 1994-1995 гг.»

xxxvi Постановление правительства Российской Федерации «О разработке проекта федеральной целевой программы “Создание общегосударственной автоматизированной системы учёта лиц, проживающих в Российской Федерации и временно пребывающих на её территории, и официальных документов, удостоверяющих их личность”».

xxxvii Бахметова, Испов, указ. соч., стр.34.

xxxviii 次の文献の記述による。このうち「6. 民族属性」は現在では登録対象となっていない。Министерство РФ по связи и информатизации. Концепция создания автоматизированной системы «Государственный Регистр Населения».

<http://www.rfcmd.ru/sphider/docs/koncept/Konsept.Registr.htm> (アクセス日 2011年8月25日)

xxxix ЗАГС (Записи Актов Гражданского Состояния)

旅券査証局所管の居住地・滞在地登録であり現住所の移動が登録される。また人口レジスターの所管は情報通信省であり、情報更新作業は内務省地方組織が担当する。

さて、人口レジスターを創設するにあたり問題となるのは基礎データの一つである^{xi}。内務省の居住地・滞在地登録の捕捉率の低さである。この背景には登録手続きが煩雑である他、不法滞在外国人と徴兵忌避のための国内移住者が登録しないといった事情がある。業務統計によって把握されていなかった国外からの移民が2010年センサスによって105万6,300人^{xii}把握されたことは、内務省の登録情報の捕捉率の低さを示すものである。

結び

2010年人口センサスの調査環境とセンサス代替方法に関する論議についてみてきた。改めて要点をまとめると次のようになる。

第一に、調査環境が悪化したことを主な理由として伝統的センサスに替わる代替方法への移行がロシアにおいても必要であるという認識が広がりつつあることである。

第二に、現在の論議において示されている代替方法のひとつは、人口レジスターに依拠したセンサスと追加調査とを組み合わせた方法を採用することである。

第三に、人口レジスターを創設するうえで障害となるのは、登録データの源泉の一つである内務省所管の居住地・滞在地登録の捕捉率が低いことである。

ロシア連邦国家統計局長官のスーリノフは2011年3月23日に行われたインタファクス通信とのインタビューの中で、近い将来伝統的センサスから人口レ

xi この問題については次の文献に詳しい。О.С. Чудиновских. О критическом состоянии учёта миграции в России. «Вопросы статистики» 2004 №10, с.27-35.

xii О предварительных итогах Всероссийской переписи населения 2010 года. «Вопросы статистики» 2011 №6, стр.4.

スターに依拠したセンサスと追加調査とを組み合わせた方法へ移行することになるであろうと述べた。また人口レジスターの利用者としての立場から連邦国家統計局が人口レジスターに関する提案作成作業を2012年に開始すると述べている^{xlii}。

現在模索されている人口レジスターに依拠したセンサスと追加調査とを組み合わせた方法がロシアにおいて定着するかどうかは、レジスターの基礎データの一つである内務省所管の居住地・滞在地登録の捕捉率のあり方に大きく影響されるであろう。なぜならば基礎データの捕捉率の低さはそのまま人口レジスターの捕捉率へと直接影響を及ぼすからである。

参考文献

- (1) Федеральная служба государственной статистики. Предварительные итоги Всероссийской переписи населения 2010 года.
http://www.gks.ru/free-doc/new_site/perepis2010/ (アクセス日2011年10月25日)
- (2) О предварительных итогах Всероссийской переписи населения 2010 года. «Вопросы статистики» 2011 №6, стр.3-20.
- (3) Российская Федерация. Федеральный закон о Всероссийской переписи населения.
<http://www.perepis-2010.ru/documents/acts/law-8-fz.php> (アクセス日2011年10月25日)
- (4) Постановление от 23 декабря 2009 г. №1074. Об организации Всероссийской переписи населения 2010 года.
<http://www.perepis-2010.ru/documents/acts/postanovlenie1074.php> (アクセス日2011年10月25日)
- (5) Министерство РФ по связи и информатизации. Концепция создания автоматизированной системы “Государственный Регистр Населения”
http://www.rfcmd.ru/sphider/docs/koncept/Konsept_Registr.htm (アクセス日2011年10月25日)

xlii Росстат предлагает создать регистр населения РФ для точного подсчёта численности – Суринов (23.03.2011).

<http://www.perepis-2010.ru/news/detail.php?ID=6265> (アクセス日2011年10月25日)

- (6) Антонова, О.И.. Проблемы информационного обеспечения демографических процессов в российской федерации. «Вопросы статистики» 2010 №6, стр.3-6.
- (7) Бахметова, Г.Ш., Исулов, А.А.. Регистр населения как система демографического учета. «Вопросы статистики» 1999 №5, стр.30-40.
- (8) Вишневский, А.Г., Захаров, С.В.. Что знает и чего не знает российская демографическая статистика. «Вопросы статистики» 2010 №2, стр.7-17.
- (9) Збарская, И.Ф.. О подготовке к Всероссийской переписи населения 2010 года. «Вопросы статистики» 2010 №2, стр.3-7.
- (10) Збарская, И.Ф.. О первых результатах Всероссийской переписи населения 2010 года. «Вопросы статистики» 2011 №1, стр.3-6.
- (11) Клупт, М.А. , Никифоров, О.Н.. Альтернативные методы проведения переписей населения: применимы ли они в России? «Вопросы статистики» 2010 №9, стр.3-8.
- (12) Никитина, С.Ю.. Будущее российской демографической статистики после переписи населения 2010 года. «Вопросы статистики» 2010 №6, стр.6-7.
- (13) Чудиновских, О.С.. О критическом состоянии учета миграции в России. «Вопросы статистики» 2004 №10, стр.27-35.
- (14) Чудиновских, О.С.. Современное состояние статистики миграции в России: новые возможности и некоторые проблемы. «Вопросы статистики» 2010 №6, стр.8-16.
- (15) Рассчет окончен (руководитель Росстата А.Е. Суринов о первых результатах Всероссийской переписи населения 2010 года. «Вопросы статистики» 2010 №12, стр.3-4.
- (16) Росстат предлагает создать регистр населения РФ для точного подсчета численности - Суринов (23.03.2011)
<http://www.perepis-2010.ru/news/detail.php?ID=6265> (Акуセス日2011年10月25日)
- (17) Левада-центр. Итоги переписи населения 2010. (01.11.2010)
<http://www.levada.ru/press/2010110101/html> (Акуセス日2011年10月25日)
- (18) ВЦИОМ. Пресс-выпуск №1621. (08.11.2010)
<http://www.wciom.ru/index.php?id=459&uid=13982> (Акуセス日2011年10月25日)